



町営農改善協議会研修会



2月18日、町営農改善協議会研修会が行われました。この協議会は最上総合支庁農業技術普及課、もがみ中央農業協同組合、町農業振興課で構成される町農業の振興を目的とした組織です。研修では7名が北海道赤井川村を視察し、新規就農の希望者に向けた研修生制度や支援制度、地元農家との協力体制などについて説明を受けました。

第7期最上地域政策研究所



3月12日、第7期最上地域政策研究所公開研修会が開催されました。この取組みは、最上地域の課題について調査研究することで、職員の政策形成能力の向上を目指すものです。第7期では、「新たな財源の確保等による持続可能な地域展開」をテーマに研究員の斎藤優輝（ふるさと応援推進室）が政策研究に取組みました。

おかえり女神プロジェクト



3月16日、おかえり女神プロジェクトチームが国宝土偶「中空土偶」を展示する函館市縄文文化交流センターを視察し、展示について説明を受けました。町では、国宝土偶「縄文の女神」が、故郷に帰ってくることができるよう、多角的な検討を図るため、プロジェクトチームを組織し、調査研究を推進しています。



北海道安平町早来学園視察



3月25日、浅井純教育長ほか3名が北海道安平町を訪問し、安平町立早来学園を視察しました。安平町では、新校舎建設をきっかけとした「地域ぐるみの教育」や「教育移住を呼び込む環境づくり」に取り組んでいます。視察では、教育移住や図書館を中心とした地域コミュニティの創出についての成果を確認するとともに、今後の町での施策展開に向けてのヒントを得ました。

おかえり女神プロジェクト



3月30日、おかえり女神プロジェクトチームの会議が開催され、今年度の総括として、今後の町の取組みを検討しました。町では、国宝土偶「縄文の女神」が故郷である町に帰ってくることができるよう、町全体が盛り上がるような事業企画や縄文の女神を収蔵する施設に関して検討するため、プロジェクトチームによる調査・研究を進めています。